国　語　科　学　習　指　導　案

Ⅰ　単　　元　　言葉を受け取り，言葉で伝える（『生きる』）

Ⅱ　考　　察

1　教材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

①知識及び技能

詩の内容や構造を捉え，精査・解釈しながら理解したり，それらを自分の言葉でまとめて表現したりするために必要な語句に関わる知識及び，それらを用いる技能

②思考力，判断力，表現力等

詩に表されている「生きる」ことに関する言葉と自分のこれまでの経験とを関わらせながら，考えた自分の「生きる」という概念について表現する力

③学びに向かう力，人間性等

進んで友達と関わり，見通しをもちながら，理解したことや考えたことを結び付けて，「生きる」ことに関して粘り強く考えたことを表現しようとする態度

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

〔知識及び技能〕(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

オ　思考に関わる語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，語句と語句との関係，語句の構成や変化について理解し，語彙を豊かにすること。また，語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使うこと。

〔思考力，判断力，表現力等〕C　読むこと(1)

オ　文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめること。

(3) 単元の価値

本単元では，詩『生きる』を読んで，自分のこれまでの生き方やこれからの生き方に関して考えたことを文章にまとめる学習を行う。その価値は以下のとおりである。

『生きる』は，「生きているということ」「いま生きているということ」という二行から始まる全五連の「生きる」ことに関して，様々な切り口で捉えた詩人谷川俊太郎の作品である。第一連では五感，第二連では美しいものとの出会い，第三連では感情との関わり，第四連では「いま」を共有すること，第五連では様々な「いのち」という切り口から捉えた「生きる」が描かれている。この作品を読んだ子どもたちは，詩で用いられている言葉に着目しながら，「生きているということ」「いま生きているということ」に対して，自分のこれまでの「生きる」ことに関する思いや考えを巡らせ，その共通点や相違点から共感や疑問を抱く。そして，自分のこれからの生き方について考えるようになる。「生きる」ことを考えることは，自分の存在意義を問い続けながら，よりよく生きていこうという未来を拓く子どもたちの人間性を支える面から重要である。よって，詩を読んで，自分のこれまでの生き方やこれからの生き方について考えたことを自分なりの文章にまとめることは，進んで友達と関わり，見通しをもちながら，理解したことや考えたことを結び付けて，「生きる」ことに関して粘り強く考えたことを表現しようとする態度を養う

ことにつながる。

この作品には，子どもたちにとって身近なものから，自然のもの，世界で起こっていること等の「生きる」ことについて様々な切り口から考えさせるような言葉が使われている。それらは各連の冒頭にある「生きているということ」「いま生きているということ」の二文とつながり，連ごとに異なる「生きる」という概念を表現している。よって，詩の内容や構造を捉え，精査・解釈したり，それらを自分の言葉でまとめて表現したりするために必要な語句に関わる知識及び，それらを用いる技能を高めることにつながる。

自分のこれまでの生き方やこれからの生き方に関して考えたことを文章にまとめるという言語活動は，小学校卒業という人生の節目にあたっている子どもたちにとって，これまでの自分の成長の足跡を残し，未来の自分に思いをはせたいという思いをもたせやすく，その思いを形にできる一つの方法となりうる。よって，詩に表されている「生きる」ことに関する言葉と自分のこれまでの経験とを関わらせながら，考えた自分の「生きる」という概念について表現する力を高めることにつながる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は，中学１年「言葉と出会う」（教育出版・中学国語１『ふしぎ』）における，反復表現の効果に着目しながら詩を読み味わい，読んで理解したことを基に，自分の考えを確かなものにする学習へと発展していく。

２　児童の実態及び指導方針

子どもたちは，６年「物語の世界を読み味わおう」（『やまなし』『イーハトーブの夢』）において，場面についての描写を捉え，物語の全体像を想像する学習に取り組んできた。この学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本単元を進めるにあたっての指導方針は，次のとおりである。

① 物語に使われている比喩表現や場面の様子に関わる描写に着目し，それらを物語の場面を具体的に想像する際に用いることができるようになってきている。このような子どもたちが，詩に使われている言葉に着目し，連ごとに「生きているということ」「いま生きているということ」を捉えることができるよう，叙述を根拠に考えたことを書き込むことができる，ペアで１枚の本文シートを用意する。

② 異なる二つの場面について，それぞれ想像したことを基に，「～の（な）世界」という定型の文で，場面をまとめることができるようになってきている。このような子どもたちが，詩に使われている言葉を根拠にしながら，生き方について自分なりの文章にまとめることができるよう，「生きているということ　いま生きているということ　それは～」という定型の文を用いて，自分の考えたことを文章としてまとめ，「６年３組タイムカプセル」に入れる機会を設定する。

③ 想像したことを友達と聞き合いながら，物語を読み味わうことの面白さを感じることができるようになってきている。このような子どもたちが，詩を読み味わうことの面白さに気付き，「生きる」ことに関して考えたことを友達と聞き合う学習に取り組むことができるよう，詩を音読する機会を繰り返し設定する。

Ⅲ　目標及び評価規準

Ⅳ　指導計画　　※Ⅲ・Ⅳについては，指導と評価の計画参照

Ⅴ　本時の学習（３／５時間目）

１　ねらい　第三・四・五連の「生きているということ」「いま生きているということ」について考

えたことを聞き合う活動を通して，連の内容を理解したり，自分の「生きる」ことに関する思いや考えを深めることができる。

2　準　備　振り返りシート　本文シート

3　展　開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
1　本時のめあてをつかむ。 ・他の連も読んで「生きる」を考えたいな。	○本時の学習の見通しをもてるよう，前時に書いた振り返りシートを読み直すよう促す。
めあて　第三・四・五連を読んで，「生きているということ」を聞き合おう。 「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ子どもの姿 自分が着目した連の内容とこれまでの自分経験を関わらせながら，自分の「生きているということ」について，友達と聞き合っている。	
2　第三・四・五連を音読したり，読んで考えたことを聞き合ったりする。 ・ 第四連の「産声」は人間の赤ちゃんが生まれた瞬間だと思ったけど，他の動物も考えられるのだな。 ・向こうのペアは第五連に鳥や虫など様々な生き物が出てきていると思ったのか。たくさんの生き物が一緒に生きていることを尊いと考えたのかな。 ・第五連と同じように，第四連でも今この瞬間にいろいろな場所で様々な人やものが生きている尊さが分かるな。 ・私もそういう様々な人やものや生き物の中で，一緒に生きている一人なのだと思えるな。この間の道徳の授業でも動物の命を大切に思う人が登場していたし，みんなで生きているということは大事なことだよね。	○詩に使われている言葉を多面的に捉えることができるよう，隣り合う友達とペアで１枚の本文シートを用いながら,考えたことを書き込むよう促す。 **○自分が着目した連の内容と他のペアが着目した連の内容を結び付けて「生きる」ことを考えることができるよう，「○○ペアが考えていることはどういうことかな」と全体に問いかける。（ⅱ）** ○複数の連の内容をつなげて，「生きる」ことを考えることができるよう，二つ以上の連の内容を用いて「生きる」ことを考えている子を称賛する。 ○詩から捉えた「生きているということ」と自分が考えた「生きる」ことを比べながら考えることができるよう，詩を音読するよう促す。 評価項目 ペアの友達と，作者の思いや使われている言葉の意味等を聞き合ったり，本文シートに書き込んだりしている。　＜発言・本文シート②＞
3　本時の学習の振り返りをする。 ・友達の考えを聞いたら，みんなで生きていることを考えることができたな。	○本時の学習の成果を実感できるよう，「できたこと」「考えたこと」「次に頑張りたいこと」の視点で振り返りシートを記述するよう促す。

指導と評価の計画（全５時間）

目標	詩『生きる』を読み味わい，自分のこれまでの「生きる」ことやこれからの「生きる」ことについて，考えたことを文章にまとめることができる。
評価規準	(①知 識 及 び 技 能)自分のこれまでの生き方やこれからの生き方について考えたことを表す語彙を広げ，文章の中で用いている。 (②思考力，判断力，表現力等)詩で用いられている言葉等から読み取ったことを基に，文章中の言葉を根拠にしながら，生き方について自分なりの文章にまとめている。 (③主体的に学習に取り組む態度)既習事項を生かして文章を読もうとしたり，自分の「生きる」ことに関して粘り強く考えたことを表現したりしようとしている。
見方・考え方	・詩「生きる」で使われている言葉の意味や詩における連の働きに着目すること ・連の中における「生きているということ」「いま生きているということ」とその後に続く言葉の関係を捉えたり，捉えた内容とこれまでの自分の経験とを関わらせながら，自分の「生きる」ことについての考えを問い直したりすること

過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞
つかむ	1	○これまでの国語で身に付けた「読むこと」に関する学び方を話し合ったり，詩『生きる』を読んだりして，学習課題を立てる。 学習課題例：６年間の学習を生かして文章を読み，考えたことをまとめて未来に届けよう。	**○文学的文章における学び方に焦点化して想起できるよう，既習の文学教材を例示しながら，話し合いの観点「物語の内容を捉えるため」「読み味わうため」「読んだことを生かすため」「教室での学び方」を提示する。（ⅰ）**	◇これまでの国語で身に付けた「読むこと」に関する学び方や詩『生きる』を読んだ感想を記述したり発言したりしている。　＜プリント・発言③＞
ふかめる	2	**○詩『生きる』を音読したり，読んで考えたことを聞き合ったりする。　（本時２／２）**	**○自分のこれまでの経験や友達の経験等を関わらせながら作者の思いや言葉の意味を考えることができるよう，隣り合う友達とペアで用いることができる詩の本文シートを用意する。（ⅱ）**	◇ペアの友達と，作者の思いや使われている言葉の意味等を聞き合ったり，本文シートに書き込んだりしている。　＜発言・本文シート②＞
	1	○読み味わった『生きる』の叙述を根拠に，自分の生き方について文章にまとめる。	○自分のこれまでの生き方と関わらせた詩の叙述や，これからの生き方を考える手掛かりとなった言葉等を意識できるよう，『生きる』の全文が掲載されたプリントを用意する。	◇『生きる』で使われている言葉に印を付けながら，自分のこれまでの生き方やこれからの生き方に関して考えたことを文章にまとめている。　＜プリント①②＞
ふりかえる	1	○書いた文章を読み合い，６年間の学習を振り返る。	○６年間の学習について振り返ることができるよう，４人程度のグループを編制し，文章を読み合って感想を書く活動を設定する。	◇文章を読んで，６年間の学習を振り返った感想を記述したり発言したりしている。　＜プリント・発言③＞